第2部　各分野での震災後の取り組み
第2章　宮古医療圏におけるＤＭＡＴの活動報告

岩手医科大学医学部災害医学講座教授　眞瀬智彦

岩手県でＤＭＡＴ（正式名称はDisaster Medical Assistance Team, 日本語名称は災害派遣医療チーム）が活動するにあたり、県内の活動調整を行う県庁ＤＭＡＴ調整本部を設置し、沿岸の災害拠点病院と連携・調整しながらＤＭＡＴの活動を行った。岩手県庁調整本部と宮古医療圏でのＤＭＡＴ活動について報告する。

1　岩手県庁ＤＭＡＴ調整本部

東日本大震災発災直後に本部が立ち上げられた。活動期間は、平成23年3月11日から3月19日までの9日間で、本部設置場所は岩手県庁4階特別会議室に設置された岩手県災害対策本部支援室内医療班内である。本部員として岩手医科大学、岩手県立中部病院、国立病院機構災害医療センター、長野相澤病院、島根大学、兵庫県災害医療センターである。ちなみに岩手県ではＤＭＡＴ調整本部と日本赤十字社岩手県支部、岩手県保健福祉部、岩手県医療局によって医療班として県内全般の医療調整を行った。主な活動内容として、情報収集（県内の被災状況、県内の医療機関の状況、傷病者の発生状況、県内の道路・天候状況等）、県内で活動するＤＭＡＴの活動の管理（国に対して派遣要請、被災地内への派遣調整等）、広域搬送の国への要請、ＳＣＵ（正式名称はStaging Care Unit, 日本語名称は航空搬送拠点臨時医療施設）の設置・管理、被災地からの傷病者転院先病院の選定と調整、その搬送手段の確保（他機関の救急車・ヘリコプター等）、医薬品の不足状況の把握・調達、従来のＤＭＡＴの活動期間は3日程度とされていたため、発災3～4日目に撤収するチームがあり、被災地内の医療継続のためＤＭＡＴの追加派遣を3月16日、国に対して要請した。

県庁災害対策本部医療班を主に運営していたのは、ＤＭＡＴ調整本部であり、ＤＭＡＴ撤収の準備として次の調整機能である「岩手災害医療支援ネットワーク」を立ち上げた。岩手災害医療支援ネットワークに業務を引継ぎ、3月19日県庁ＤＭＡＴ調整本部を撤収した。

2　岩手県立宮古病院被災状況

宮古医療圏の災害拠点病院である県立宮古病院の被災状況は発災直後以下の様であった。ライフライン　電気：停電、自家発電使用、ガス：被害なし、水道：断水、給水車で対応、医療ガス：被害なし　通信　固定電話：不通、携帯電話：不通、衛星電話：数台　その後停電は改善されたが、給水車による水の確保がＤＭＡＴ活動中は継続された。通信については当初、衛星電話と県の防災無線のみで可能であったが、移動基地局の設置で細々ではあるが携帯電話の通話が可能となった。

3　ＤＭＡＴ宮古医療圏での活動

宮古医療圏においても活動期間は平成23年3月11日から3月19日までの9日間である。

活動の拠点を県立宮古病院において活動した。宮古地区を支援したＤＭＡＴは以下のチームである（それぞれのチームの活動期間を表1に示す）。八戸市立市民病院、青森県立中央病院、岩手県立中央病院、岩手県立二戸病院、秋田県厚生農業協同組合連合会仙北組合総合病院、秋田県厚生農業協同組合連合会由利組合総合病院、茨城西南医療センター病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、埼玉医科大学国際医療センター、千葉大学医学部附属病院、藤沢市民病院、北里大学病院、横浜労災病院、新潟県厚生農業協同組合連合会村上総合病院、新潟大学医歯学総合病院、済生会新潟第二病院、信州大学医学部附属病院、長野相澤病院、国立病院機構信州上田医療センター、国立病院機構静岡医療センター　以上21医療機関であった。

活動内容は病院支援と医療搬送支援が主なものであった。病院支援としては宮古病院にできたＤＭＡＴ活動拠点本部の支援活動、院内の医師・看護師等の業務軽減と休息の確保のため夜勤帯等の救急外来診

表１　宮古地区を支援したDMATチームの活動期間

	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日
八戸市立市民病院					■	■	■		
青森県立中央病院	■	■	■	■	■				
岩手県立中央病院		■	■	■	■	■			
岩手県立二戸病院			■	■	■	■			
秋田県厚生農業協同組合連合会仙北組合総合病院	■	■	■	■	■				
秋田県厚生農業協同組合連合会由利組合総合病院	■	■	■						
茨城西南医療センター病院				■	■	■	■		
自治医科大学附属さいたま医療センター					■	■	■		
埼玉医科大学国際医療センター	■	■	■	■					
千葉大学医学部附属病院				■	■	■	■		
藤沢市民病院					■	■	■		
北里大学病院				■	■	■	■		
横浜労災病院					■	■	■		
新潟県厚生農業協同組合連合会村上総合病院						■	■	■	■
新潟大学医歯学総合病院				■	■	■	■		
済生会新潟第二病院	■	■	■	■					
信州大学医学部附属病院	■	■	■	■					
長野相澤病院	■	■	■						
国立病院機構信州上田医療センター	■	■	■	■					
国立病院機構静岡医療センター	■	■	■	■					

察、トリアージ実施等である。搬送支援として、ＤＭＡＴの自病院救急車、自衛隊救急車、ヘリコプター同乗による、内陸医療機関への傷病者の搬送支援（医療搬送）。これは主には宮古病院から内陸医療機関への搬送と、病院避難が必要となった県立山田病院の入院患者の転院搬送を含む。宮古市災害対策本部医療本部での情報収集と活動調整。救護所の情報収集と医療支援。現場活動（津波がれき現場で生存者情報があり、消防の要請で現場出動した）。

ＤＭＡＴは通信状態の悪い中、災害拠点病院の機能を支え、従来のＤＭＡＴの活動とされていなかった活動も行いながら、次の支援チームに引継ぎ活動を終えた。